

【肥育牛経営】肥育期間短縮で飼料費低減

畜産酪農研究センター 芳賀分場 肉牛飼養研究室

県内の肥育農家では10ヵ月齢から30ヵ月齢まで20ヵ月間肥育することが多いと思いますが、畜産酪農研究センターでは黒毛和種去勢牛の19ヵ月間肥育で、量・質ともに十分な枝肉を生産しています。そして、肥育期間を1ヵ月短縮するだけでも飼料費が節減できることがわかりました。

栃木県畜産試験場で平成16年度～18年度に実施した試験を基に試算した結果を紹介します。

【試験設定】

- 1 肥育期間：8ヵ月齢～27ヵ月齢（19ヵ月間（570日））
- 2 給与飼料：肥育前期に乾草多給、その後、稲ワラ（約3cmに細断）と濃厚飼料を混合して飽食給与。
 - 肥育前期（8ヵ月齢～12ヵ月齢）チモシー乾草40%、濃厚飼料60%
 - 肥育中期（13ヵ月齢～22ヵ月齢）稲ワラ15%、濃厚飼料85%
 - 肥育後期（23ヵ月齢～27ヵ月齢）稲ワラ8%、濃厚飼料92%

【試験結果】

体重(kg)		枝肉重量(kg)	ロース芯面積(㎡)	バラの厚さ(cm)	皮下脂肪の厚さ(cm)	歩留基準値	BMS No.	枝肉格付
肥育開始時	肥育終了時							
269.7	804.7	530.3	66.3	7.9	3.1	73.9	8.0	A5(1頭) A4(2頭)

【飼料費試算】（試験牛の飼料摂取量をもとに肥育牛1頭あたりの飼料費を試算）

表1 肥育期間の飼料費

区分		短期肥育 (19ヵ月間)	20ヵ月間の 肥育(試算)
肥育前期	期間	8～12ヵ月齢	10～13ヵ月齢
	飼料費(円)	64,562	48,422
肥育中・後期	期間	13～27ヵ月齢	14～27ヵ月齢
	飼料費(円)	274,829	274,829
仕上げ期	期間		28～30ヵ月齢
	飼料費(円)		51,678
全期間の飼料費(円)		339,392	374,929
		91%	100%

飼料単価
・チモシー乾草 60円
・稲ワラ 50円
・配合飼料 65円

肥育期間を1ヵ月間
短縮すると
飼料費が1割低減

【粗収入の試算】（枝肉格付A4、枝肉単価1,900円で試算、20ヵ月間肥育の肥育終了時体重は試験の増体量をもとに算出）

表2 枝肉販売価格と粗収入

項目	短期肥育 (19ヵ月間)	20ヵ月間の 肥育
肥育終了時体重(kg)	805	840
枝肉重量(kg)	523	546
枝肉単価(円)	1,900	1,900
(A) 枝肉販売金額(円)	994,175	1,037,400
(B) 飼料費(円)	339,392	374,929
粗収入(円) (A)-(B)	654,783	662,471
肥育期間(日)	570	600
1日あたり粗収入(円)	1,149	1,104

短期肥育と同じ1日あたり粗収入を上げるためには、枝肉重量を約15kg（生体重で22kg～23kg）増加させるか、枝肉単価を約50円向上させる必要あり

飼料価格が高いときには、発育のよい牛は肥育期間を短縮して出荷し、1日あたり粗収入を増やす経営方法も検討する価値があります。